

東の風



やさしく
かしこく
たくましく

No.38

平成29年7月13日(木)

文責：園田

学校教育目標：心豊かに 自ら学び たくましく生きる子どもの育成

かけがえのない大切な命を守るために！

《夏の交通安全県民運動》が始まっています。期間は7月11日(火)～7月20日(木)の10日間。学校付近でも早速11日朝から交通安全の立哨指導に立ってくださっています。いつもありがとうございます。

さて、学校前の下亀駐在所の下田巡査から左記のチラシを頂きました。長崎県警からのチラシです。



タイトルには大きく

手のひら運動



と書かれています。

これはどういうことかといえば     
『道路を横断する際は、車の運転者に「手のひら」を示して横断の意思を伝えましょう!』という安全横断のための運動です。

皆さん、運転免許をお持ちの方はご存知かと思いますが、そもそも横断歩道は『歩行者が優先』です。歩行者が横断している時や、横断しようとしている時は、車は横断歩道の手前で一時停止しなければなりません。

ですが、実際は横断歩道前に歩行者がいても、止まらずにそのまま通り過ぎていく車が多いように思います。



本校で春に実施した交通安全教室で次のようなことがありました。その日の交通安全教室の学習は、「安全な歩行」についてのもの。1年生には6年生がペアとなり、みんなで学校周辺の道路や踏切付近で、正しく安全な歩行や道路の横断の仕方等の学習をしていました。そして東田平郵便局前の横断歩道を渡ろうと歩道にみんなで並んでいました。黄色い帽子をかぶった1年生が6年生と共に並んでいます。その姿は遠くからでも良く目立ちます。

車が4・5台、近づいてきました。私は「小学校の前の道路で、明らかに入学したての1年生だと思える子ども達がこんなに目立つ格好で横断歩道を渡ろうと待っているのだから、車は止まってくれるだろう。」と思って見ていました。ところが車は止まりません。あっさりと次々に通り過ぎていきました・・・。



一人ではなく、車から見えにくい場所でもありません。学校前。何人もの1年生。目立つ黄色い帽子・・・・・・・・。こんなに「止まらなければ・・・」と思える条件がそろっている場合でさえも、止まってはもらえなかったのです。

ましてや、人が一人ぽつんと立っている場合は車はなかなか止まらないでしょう。

だからこそ、この「手のひら運動」なのだと思います。運転する方々には明確に自分の意思を表示すること。手を挙げるだけでなく『私はこの横断歩道を渡ります!』ということ、手を挙げて、手のひらを運転する方に見えるように示しましょうということなのです。

これも「自分の命は自分で守る」ための有効な方法の一つだと思います。しないよりした方がいい!ですね。来週末からは長い長い夏休みが始まります。子ども達は子どもだけの自由な時間が増え、地域の中での行動範囲も広がるでしょう。いつもより遠くまで歩いて行ったり、自転車に乗ったりすることも増えるでしょう。まずは交通安全のきまりを守ること。そして「自分の命は自分で守れる力を身に付けること」が大切です。